

Y24b      アマチュア天文界の学生集会      天文冬の陣20年の歩みとこれから

鈴木 隆之 (第20回冬の陣実行委員会)、日田 将樹 (関西学生星のネットワーク)、山田 龍太 (関西学生星のネットワーク) ほか関西学生星のネットワーク 第20回冬の陣実行委員会一同

天文冬の陣と言うのは毎年12月に行われる天文をテーマとした学生の全国集会の事です。今年で、20周年を迎えます。発端は1989年夏、日本流星研究会主催の流星会議に集まった若手・学生メンバーが冬に学生主体の流星イベントを行おうとした事に始まり、第一回目が大阪だったため、「流星冬の陣」という粋な名前がつけられました。現在では流星のみならず天文の全般を扱い「天文冬の陣」と改称されております。

天文・天体物理夏の学校とは違い、プロの研究者を志望する学生ではなく参加者の主体はアマチュアとして活動する学生となっております。見方によってはただの娯楽イベントと見られてしまうかもしれません。

しかしながら、天文学はアマチュアの参加が盛んな学問です。

プロを目指す若手の研究発表会である夏の学校に対して、広くアマチュアの学生を集め知的交流を行う冬の陣にはそれとは別の確固たる存在意義があると考えられます。

本発表では冬の陣の20年の歴史と変遷そしてその天文界における役割とこれからについて論じていきたいと思っております。